

令和7年度 社会福祉法人杉の子会 東昌第二保育園 自己評価結果

保育自己評価について

「保育所保育指針」の第1章の3で、「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育所等の自己評価を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について、自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」と保育指針に明記されています。当保育園では、そのことに基づいて検討し、保育園としての自己評価を実施しました。

保育士自身の自己評価をまとめ、これをもとに東昌保育園の自己評価・総評を行い、今後の保育園運営に役立てていきます。

【評価基準】

評価をするにあたっては、次の基準で行っています

- A－かなりできている（理想的な状況に近い状態）
- B－ほぼできている（取り組みを行い、ほぼできている状態）
- C－あまりできていない（通常行われている状態だが、頑張る必要がある）
- D－ほとんどできていない（もっと頑張らなくてはいけない状態）

第1章 総則		総合評価
	「保育理念・方針」「保育の全体計画」に基づき保育をおこなっていますか	B
	自分の発言・行動が相手や周囲に与える影響を考慮して行えていますか	B
	保育の「ねらい」や「内容」を保護者にわかるように説明できますか	B
	職業上知り得た子どもの情報や園内の情報等について、適切な理由なく園外で話さないようにしていますか	A

第2章 子どもの発達		総合評価
	乳幼児期は、生涯にわたる「生きる力」の基礎が培われる時期であることを理解して、保育を実施していますか	B
	子どもの発達は、豊かな心情・意欲・態度を身につけ新たな能力を獲得していく過程であることを理解していますか	B
	子どもと生活や遊びを共にする中で、一人ひとりの子どもの心身の状態を把握していますか	B
	子どもの情緒を安定させ、人への信頼関係を育てるために一人ひとりの子どもを愛し、信頼していますか	B
	子ども同士の関係の基礎となるように、あなたは一人ひとりの子どもと信頼関係を構築していますか	B
	仲間との関係の中で「個」の成長も促すことを意識して、遊びを展開していますか	B
	発達過程区分は、同年齢の均一的な発達基準ではなく、一人ひとりの子どもの発達過程として捉えていますか	B

第3章 保育の内容		
①ねらい・内容		総合評価
	保育の内容は目標を具体化した「ねらい」とさらに具体化した「内容」から構成されていることを理解していますか	B
	「養護」とは、子どもの生命の保持と情緒の安定を図るための援助であることを理解していますか	B
	「教育」とは、心情・意欲・態度など子どもが身につけるための援助であることを把握していますか	B

①ねらい・内容 (1)養護 (生命の保持・情緒の安定)		総合評価
	一人ひとりの子どもの生理的欲求が十分満たされるよう配慮していますか	B
	子どもが触れたりする物や過ごす場所など、衛生的・安全を保てるように常に気をつけていますか	B
	子どもが何を求めているか、いつも思いをめぐらせていますか	B
	子どもとの温かなやりとりやスキンシップを常に心がけていますか	A
	子どもが不安定になった時にいつでも支えられるよう、一人ひとりを視野にいれていますか	B
	「ダメ」「いけない」等の否定的な言葉を不必要に使わないようにしていますか	B
	「よくできました」「頑張ったね」「えらいね」等の肯定的な言葉を積極的に使っていますか	A
	子どもの状況に応じて、抱いたり、優しく声をかけたりしていますか	A
①ねらい・内容 (2)教育 【健康】		総合評価
	戸外での活動を積極的に取り入れていますか	B
	十分に体を動かせるように、時間と場所を確保するなどの配慮をしていますか	B
	保育士が率先して身体を動かすなど、子どもがその楽しさを体験できるよう配慮していますか	B
	食事・手洗い・排泄など、生活に必要な活動の仕方を身につけるよう、働きかけていますか	A
	危険に気付いて行動できるように、安全についての心構えを日頃から伝えていますか	A

①ねらい・内容 (2)教育 【人間関係】		総合評価
	友達と一緒に喜んだり、悲しんだりすることが出来る機会をつくっていますか	B
	つまづきや葛藤、けんかなどを子どもの発達に欠かせないものとして捉え、対処していますか	B
	子ども同士が思ったことを相手に伝え、相手の思っていることにも気付けるように支援していますか	B
	困っている友達のことを心配するなど思いやりを持てるように支援していますか	B
	園生活の中で、順番を守るなど、きまりの大切さを理解できるように、ていねいに説明していますか	B
	当番活動や保育士の手伝いをするなど、人の役に立つ喜びを味わえるようにしていますか	B
	家族などから、自分がたくさんの愛情を受けて育ってきたことを知る機会をつくっていますか	B
①ねらい・内容 (2)教育 【環境】		総合評価
	心の安らぎや、豊かな感情を体験できるように、子どもと自然の触れ合いを大切にしていますか	B
	その日の天候・気候に合わせた保育をしていますか	A
	あなたは、社会の出来事について、子どもにわかりやすく説明できますか	C

①ねらい (2)教育 【言葉】		総合評価
	子どもの言葉の発達の過程について、保育士としての専門的な目で詳細に観察していますか	B
	あなたは、子どもの発達や理解力や生活経験に合わせた言葉を使って保育していますか	B
	あなたは、日々心のこもったあいさつを子どもと交わしていますか	A
	子どもがしたいこと、してほしいことを話しているとき、最後までゆったりと聞くようにしていますか	B
	あなたは、子どもが分からないことを尋ねることが出来るなど、その子なりの言葉で表現する機会を大切にしていますか	B
	子どもが見たこと・聞いたこと・感じたことなどをその子なりの言葉で表現する機会を大切にしていますか	B
	絵本や紙芝居の読み聞かせをするときは、言葉の楽しさや美しさに子どもが気づけるように心がけていますか	B
	子どもが絵本や物語の内容と自分の経験を結びつけたり、想像をめぐらせるよう、読み方を工夫していますか	A
	人と気持ちが通じ合う喜びを感じることができるよう配慮していますか	B
	「ごめんなさい」「ありがとう」など、生活・社会的に必要な言葉をいつも使えるように保育していますか	B
①ねらい・内容 (2)教育 【表現】		総合評価
	歌ったり、踊ったりして、音や動きの楽しさに気づき、楽しめるように支援していますか	B
	ハサミなど道具の正しい使い方を、一人ひとりにていねいに教えたり、危険の無いように見守ったりしていますか	A
	子どもが作ったり表現したものを、互いに見せ合ったりする機会をつくっていますか	B
	生活の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わえるような機会をつくっていますか	B
	人前で表現する機会や場面を保育の中でできるだけ多く用意していますか	C

②保育の環境		総合評価
	季節に応じて、保育室のインテリアなど環境に工夫していますか	C
	保育中に音楽を流すときは、選曲や音量の大きさに配慮していますか	B
	日々の保育の中で、自由に遊べる時間を設けていますか	C
	子どもの作品を工夫して飾ったり、ていねいに保存したりするなど、大切に扱っていますか	A
③乳児保育		総合評価
	室内の温度や湿度、換気を常に意識していますか	B
	授乳は子どもの欲しがることを尊重して行っていますか	A
	抱いて目を合わせたり、微笑みかけたりしながら、ゆったりと授乳していますか	A
	離乳食については、家庭と連携をとりながら、すすめていますか	A
	皮膚や便性などに異常がないか、注意していますか	B
	オムツの交換はやさしく声を掛けながら行っていますか	B
	しぐさや声や動きを介して発する欲求を察知し、タイミングよく応答していますか	B
	縦抱き・腹這いなど、子どもが様々な姿勢をとれるよう努めていますか	B
	季節や天候に応じて戸外遊びを行うなどの機会を設けていますか	B
	子ども一人ひとりの育ちについて、職員間で連携を取り、職員全体で見守る体制ができていますか	B
	眠い時に眠ることができる場所を用意していますか	B
	気温や天候・乳児の体調に配慮しながら、外気浴を心掛けていますか	B

④長時間保育		総合評価
	クラスや年齢の違う子どもとも楽しく、安全に遊べるように、縦割り保育の良さを理解し、伝えられるよう配慮していますか	B
	子どものその日の様子を、確実な方法によって職員間で伝達できていますか	B
	その日の子どもの様子が保護者に伝わるように、伝言の内容や書き方を検討・工夫していますか	B
⑤障害のある子どもの保育		総合評価
	園での生活の仕方について、障害のある子どもの特性に合わせた個別の支援計画を立てて保育を行っていますか	B
	障害のない子どもと障害のある子どもとの関わり方に対して、互いに良い関係を築けるようにあなたは配慮できていますか	B
	障害のある子どもの保護者の気持ちを受け止め、信頼されるよう努めていますか	B
⑥子どもの人権		総合評価
	性別の差への先入観による固定概念での対応をしないよう配慮していますか	B
	子どもの価値観の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮していますか	B
	子どもの最善の利益を考慮し、支配しようとせず、人権に配慮した保育ができていますか	B
	子どもを叩いたり、手を強く引っ張るなどの行為をしていませんか	B
	子どもが威圧的に感じる言葉・態度をとっていませんか	B
第4章 保育の計画及び評価 ①保育の計画《保育過程》		総合評価
	年・月案などの長期的な指導計画と関連させ、子どもの生活に即した週・日案などの指導計画を作成していますか	B
	あなたの指導計画の反省・評価は、次の指導計画作成に反映できるものになっていますか	B
	提出物・書類は不備なく、期日までに提出できていますか	B
	その日にあった出来事や気になる子どもの様子などをその子どもに関わる他の職員と共有していますか	B
	子どもの個人記録などは、個人情報保護法や守秘義務に基づいて管理していますか	A

②小学校との連携		総合評価
	「保育所児童保育要録」に記載すべき内容について理解していますか	B
	普段の保育記録が「保育所児童保育要録」の記入に役立つように整理されていますか	B
第5章 健康及び安全 ①子どもの健康支援		総合評価
	子どもの日々の健康状態を把握し、それを一人ひとりの保育に生かしていますか	B
	健康診断の結果を他の職員と共有していますか	B
	感染症が発生したとき、発生状況等を保護者に連絡していますか	B
	子どもの健康状態などを職員相互で確認していますか	A
	子どもの与薬を申請された場合、医師からの留意事項等を把握していますか	B
②環境及び衛生管理		総合評価
	子どもが活動しやすいように、その都度、保育室の換気や湿度・温度に配慮していますか	A
	手洗い場やトイレを清掃し、清潔に保つようにしていますか	A
	砂場・遊具・玩具について、衛生面に配慮していますか	B
③安全管理		総合評価
	子どもが危険な場所、危険な遊びがわかり、安全に気をつけて行動するよう配慮していますか	B
	交通安全の習慣が子どもの身につくように配慮していますか	B
	災害時に安全な避難場所・避難経路・避難方法を把握していますか	A
	不審者が園内に侵入した際、どのように対応するのか理解していますか	B
	階段の上り下りの際に手すりを持つなど、注意を呼びかけていますか	B
	室内で、走っている・危険を伴う行為をしている子どもに対してその都度注意をしていますか	B

④食育の推進		総合評価
	偏食や残さず食べることを直そうと、過度に叱ることがないように配慮していますか	B
	食材や調理する人への感謝の気持ちが育つように心がけていますか	A
	食べ物が、体の中でどのような働きをするのかわかりやすく説明していますか	C
	その日の食事の食べ具合などを必要に応じて保護者に知らせていますか	B
	子どもの体調に応じた食事が提供できるように配慮していますか	B
	アレルギー児対応について理解していますか	B
	アレルギー児対応について必要書類等の説明ができますか	B

第6章 保護者に対する支援 ①在園児の保護者支援		総合評価
	送迎の際に、保護者と必ず言葉を交わすようにしていますか	B
	子育ての就労を支えるために、保護者の気持ちに配慮しながら接していますか	B
	あなたは、保護者の子育ての悩みや心配事を安心して話せる存在になるよう心がけていますか	B
	保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録していますか	B
	保護者からの相談内容などを、担任一人の問題としないで、園全体で受け止めようとしていますか	B
	保育実践の内容や意図を、わかりやすく保護者に説明することができますか	B

②地域における子育て支援		総合評価
	一時保育での、子どもの発熱・体調不良・ケガ等の対応について、保護者の方にご理解を得られるように説明していますか	B

③地域や関係機関と連携		総合評価
	子どもの医療や保健に関する問題について、連絡・相談すべきところを知っていますか	B
	園の周辺の住民と良好な関係を築けるよう、日常のあいさつなどを心掛けていますか	A
	実習生・学生を受け入れる時には、意義や方針を理解し、あなたが指導的立場にあることを意識していますか	B

第7章 職員の資質向上		総合評価
	会議などでは、子どもの最善の利益を尊重して発言していますか	B
	自分の保育実践の内容や意図を、同僚に説明することができますか	B
	保育時間内に保育とは無関係の私的な話をする時がありませんか	B
	言葉遣いは職員として、適切に使えていますか	B
	自己評価など、自分の保育を振り返る機会を設けていますか	B
	あなたは園長や主任と、質問したり意見を交わしたりできますか	A
	園長・主任からの指示や会議のなどの結論が自分の意見と違ったときも、それに従って協力できますか	A
	自分の実践について、同僚から意見をきくように努めていますか	A
	仕事中、笑顔でいる事を心がけていますか	A
	保育に関わる知識や技能の向上に努めていますか	B
	あなたは保育士としての人間性や倫理観を高めるために、向上心を持って仕事に取り組んでいますか	B
	自己肯定感を持っていますか	C
	関わりを持つ全ての人に、肯定的な態度をとれていますか	B

総 評

全体的な保育士の自己評価と園としての自己評価を総合して、全体的にみれば、「ほぼできている」という評価になった。また、長期に渡る病気の保育士もなく比較的安定した保育を行えたのではないかと評価した。「子ども達の安全に配慮し。肯定的な対応。あいさつ・感謝の言葉を重視した保育」を一年を通して行えた。

しかし、園・保育士ともに現状に満足しているわけではなく、反省・改善点を感じており、各自が目標・課題を持って保育を行っている。

ただその中で、経験の浅い職員や自信が持ちきれない職員は、保育士としての自己評価が低くなる傾向があった。

確かに中堅以上の保育士に比べたら経験が少ない事は否めないが、自信ある保育士であるために、「自分の熱意を信じる。そして自分の心に正直にいる事・慢心せずに今の自分を認めてあげること・見直すこと・感謝すること。そしてその想いを子ども達や園に関わる人たちに発信する。」そうすれば自ずと自信も生まれ、必要とされる人材でいられるのではないかと考える。全ての保育士が自己肯定感を感じられるようにすることが良い園になっていく為には不可欠だと感じているので、職員間の支えあい。協力する。そして少しの失敗を恐れず仕事に臨める様に園として環境を整える事が必要である。

アレルギーの対応について、申請の書類や対応の問いに、自信が持てない職員がいたが、基本的に申請は園長と主任が対応するため保育士は、その場に立ち会ったことが無い事ので、評価を下げてしまったのではないかと考える。アレルギー児の保護者との対応についても基本的に担任が行う為、アレルギー児のいないクラスの職員は普段やりとりをしていないので慣れていない。その分、万が一対応する場合があった時、不安に感じるようだ。なので、園として情報の共有密にし、職員の不安が少なくするよう努める。

保護者の方々には説明が足りない部分であったり、不手際がありご迷惑をお掛けしてしまうことがある。ご指摘を受けた事に対して可能な限り対応・お答えし、ご理解いただけるように努める。

引き続き、子ども達はもちろんの事、園に関わる全ての方々の為に、より良い対応や体制がとれる様、向上心・誠意をもって園の運営を行っていく。